

## 最近の韓国・中国・台湾経済情勢について

### 【今週のチェック・ワード】

#### 【法定通貨について】

「通貨は国家の主権の象徴である。」

と言われます。

一国の政府は、

「自国内に於ける国民のものやサービスの経済的な価値判断基準」

である、「通貨」を、「善意」を以って管理をし、「国民生活を安定させる」ことが一つの重要な役割であり、そうした意味で、

「中央銀行の一つの大切な使命は物価を安定させ、国民生活を安定させることにある。」

とも言われます。

さて、こうした中、最近、世界の潮流として、その中央銀行が発行する、「法定通貨」を背景としない、「仮想通貨」なるものが世界に広がっています。

電子マネーは法定通貨を背景としていますが、仮想通貨はさに非ず、私の言葉で表現すれば、「変形の現代版無尽」のようなものであり、

「親=仮想通貨の発行主体の信用力を担保にして集めたお金を有効利用していくシステムをIOT化した社会を背景にして実現している。」

ようなものであると私は見えています。

しかし、過去の無尽は、「当時の法定通貨」を背景としていますので、いまの仮想通貨よりもまだ相対的には信用力があると思います。

これに対して、現在の仮想通貨は、「親」が無責任であると、その仮想通貨を保有した人は大損害を被る危険性があります。

一方、政府、金融当局からすると、通貨による経済管理がしにくくなることによって、「国民生活を安定させる」

と言う大目的に大いに支障をきたす危険性もあります。

従って、政府としては、「政府が“親”になる」形で、このIOT時代に合わせて、「キャッシュレス化」を更に推進していくことを進めようとしてくるものと思います。

そして、実際に、スウェーデンやエストニアと言ったあまり人口は多くなくIOT化が社会に浸透している国々ではこうした動きが見られます。

また、先ずはキャッシュレス化を推進、これを一気に世界に広げようとする英国は英国連邦の一つ、インドと組み、そのインドにキャッシュレス化を進めさせ、その功罪を確認しながら、こうした計画を、自国通貨のみならず基軸通貨にも生かしていく仕組み作りに向けた壮大なる実験を始めていますと私は認識しています。

時代の趨勢ですね。

そして、わが国、日本でも一つの実証実験として、「現金通貨でのお支払いお断り、電子決済のみ支払い可能」のレストランが生まれています。

しかし、私にはここに一つの根本的な疑問があります。

それは、原則として、

「法定通貨には強制通用力がある。」

とすることであります。

国家の主権を握る政府は政府=国が発行する法定通貨に信用力を持たせ、国民が自国内に於いて、これをいつでもどこでも使えるように担保していますが、その法定通貨を使わせないお店と言うのは、ある意味で、「法律違反」となります。

従って、日本でも、政府は基本的には、「仮想通貨は認めない。」と言うスタンスを基本とし、しかし、一方で国民利便性を高める為、政府が通貨管理をできるように仕組みを整えつつ、「キャッシュレス化」を進めてくると私は見えています。

また、そうした流れの中で、時代の趨勢としては、

「現行の基軸通貨、米ドルの信認は落ちる方向にある。」

のではないかと思います。

一方で、

「国際金融の雄・英国と、一気にキャッシュレス化を進めている中国本土は連携をし、キャッシュレス化を前提に、新たな基軸通貨体制を構築してくる可能性がある。」

とも考えています。

何れにしても今後も注目、フォローしたいと思います。

## **【台湾・中国・その他】**

—今週の台湾・中国—

[台湾]

台湾政府と日本政府は、台湾と日本が海洋協力について話し合う「日台海洋協力対話」を台北市内で開催した。

昨年10月に初会合が開かれており、今回で2回目となるこの会議では、日台間で漁業協力や漁業資源の保護、海難救助、海洋の科学研究での協力などに関して意見交換されている。

日本にとっては、経済、外交、軍事面で重要な会議である。

今後の動向をフォローしたい。

[中国]

中国本土にとって、1997年と1999年に英国とポルトガルからそれぞれ返還してもらった香港とポルトガルの、「一国両制度」の進展は、極めて重要であり、また、慎重且つ大胆にその運営を行っている。

こうした中、習近平国家主席と李克強國務院総理はマカオ特別行政区政府の施政について十分肯定的な評価を示したほか、継続してマカオの経済発展、民生の改善に対する大きなサポートを継続する姿勢を今般示唆している。

今後の動向をフォローしたい。

—今週のニュース項目（見出し）—

1. 北朝鮮問題と米中露関係について
2. 日中関係について

3. **トランプ政権の外交姿勢と中国本土について**
4. **中朝関係について**
5. **ミャンマー情勢について**

—今週のニュース—

#### 1. **北朝鮮問題と米中露関係について**

米国のトランプ大統領は、ホワイトハウスで記者団に対して、核・ミサイル開発を続ける北朝鮮への圧力強化について、

「中国本土は協力しているがロシアはしていない。ロシアの協力が必要で、非常に重要である。」と述べて、ロシアに対する不満を示している。

筆者は、ロシアは北朝鮮を自らの利権と考え、また北朝鮮もロシアにきちんとした対応を取ってきているため、米中とは異なる対北朝鮮姿勢を取っているものと見ており、トランプ大統領の言うロシアが協力していないと言うコメントはある意味では当然かとも思われる。

いずれにしても、今後の動向をフォローしたい。

#### 2. **日中関係について**

政治・経済や外交安保について民間レベルで対話する「東京—北京フォーラム」が閉幕した。

今年は、反グローバリズムや保護主義の動きが強まる世界情勢を念頭にした声明が出され、

「より開放的な経済秩序の確立に向けて、日中が協力する重要性が高まっている。」

などと宣言した、「北京コンセンサス」が採択されている。

具現化することをただただ期待するのみである。

#### 3. **トランプ政権の外交姿勢と中国本土について**

米国のトランプ大統領とその政権は、「力による平和維持」を明確に打ち出している。

しかし、トランプ大統領は米国の「アメリカ第一主義」を提唱しており、対外軍事姿勢とその他の外交姿勢を分ける姿勢を顕著にしており、この中で、日本など同盟諸国との連携重視を前面に押し出す姿勢も見せている。

米国の虫のよい外交姿勢である。

そして、この外交姿勢により、日米韓の軍事連携が強化することを中国本土は特に警戒している。

即ち、中国本土は、トランプ米大統領が発表した、こうした「国家安全保障戦略」の中に示された外交姿勢について、

「米国は『中国本土とのパートナーシップを発展させる』と表明しながら、一方で中国本土を対立側に置くのは自己矛盾である。

自国の利益が他国や国際社会の共通利益をしのぐという考えは徹頭徹尾、利己主義であり、必然的に自らを孤立に向かわせる。」

との主旨のコメントを行っている。

今後の動向をフォローしたい。

#### 4. **中朝関係について**

中国本土政府が、補修工事名目で閉鎖していた中国本土・丹東と北朝鮮・新義州を結ぶ鉄橋である「中朝友誼橋」が21日に再開通している。

北朝鮮に対する圧力とその緩和による、中国本土政府の揺さぶりが続いていると見ておきたい。

## 5. ミャンマー情勢について

ロビンギャ問題はミャンマーを震源地とした大きな国際的関心事となりつつある。

こうした中、国連人権高等弁務官事務所は、ミャンマー政府が、同国の人権問題を担当する李国連特別報告者の入国と調査への一切の協力を拒否したと発表している。

国際人とされてきたアウンサンスーチー最高顧問の判断も国連の調査を拒否するというものであったのであろうか？

今後の展開を注視したい。

## 〔韓国〕

—今週の韓国—

韓国国内では、

「日本メーカーが、安倍首相が推進するアベノミクスと円安を大きな武器に華やかに復活している。

しかし、韓国の文政権の最低賃金引き上げ、労働時間短縮、通常賃金拡大など労働者寄りの政策と規制に苦しむ韓国企業は、最近、円安の急激な進行でダブルパンチを受けている。

韓国の財界関係者の中からは、

“日本企業は円高が追い風だが、韓国企業は手足を縛られた状態で日本企業と競争しなければならない状況である。”

と言った見方が強まっている。」

とマスコミ各紙が報道している。

意外なところで、皮肉な形ではあるが、日本のアベノミクスは評価されている。

—今週のニュース項目（見出し）—

1. 北朝鮮問題について
2. 北朝鮮問題と日米韓関係について
3. 現代自動車、アバンテ販売台数について
4. 米韓関係について
5. 北朝鮮の穀物生産について
6. 本年の経済総括と来年の見通しについて
7. 北朝鮮の外交姿勢について

—今週のニュース—

### 1. 北朝鮮問題について

北朝鮮の核とミサイル問題を巡り、国連安全保障理事会は、議長国の日本が呼びかけた閣僚級会合を国連本部で開いた。

その中で、米国のティラーソン国務長官は演説を行い、北朝鮮と対話をはじめる前に、

「北朝鮮は国際社会に対する挑発行為を持続的に停止する必要がある。」

との主旨のコメントを行い、非核化に向けた本格交渉のためには北朝鮮側の行動が伴う必要があるとの考えを明らかにしている。

米国政府が、北朝鮮との間で、

「無条件での対話を行う用意がある。」

と発表した真意は何処にあるのか、もう暫くチェックする必要があるであろう。

但し、北朝鮮の朝鮮労働党機関紙「労働新聞」は、北朝鮮との対話に条件を付けなかったティラーソン米国務長官の上記の発言を、米国のホワイトハウスが直後に打ち消したような発言をしたことに触れ、

「内部調整もできない米国が、一貫性もなく付けたり外したりする対話の看板に興味はない。」とする論評を掲載している。

ある意味で、当然の批判ともいえよう。

こうした点も含めて、米国の反応と北朝鮮の今後の動きを注目したい。

## 2. 北朝鮮問題と日米韓について

日本の朝日新聞によると、北朝鮮が11月29日に新型の大陸間弾道ミサイル（ICBM）「火星15」を発射した際、日本政府が韓国政府に対して電話での防衛相会談を持ちかけたがこれを断られていたと日韓関係筋のコメントを引用した報道を行っている。

米中の狭間であって、日本をスケープゴートにする韓国の外交姿勢は変わらないと筆者は見ており、更には、日米韓協力が軍事同盟に発展しないよう求めている中国本土側に韓国が配慮している結果とも見て取れる。

今後の動向をフォローしたい。

## 3. 現代自動車、アバンテ販売台数について

韓国のトップ自動車メーカーであり、世界的な自動車メーカーとなっている現代自動車の小型セダンである「アバンテ」が2016年には、世界で3番目の販売台数を記録したことが、自動車調査会社ベスト・セリング・カーズ・ブログの調べで判明した。

即ち、アバンテは昨年87万9,224台を売り上げ、世界第三位となったと報告されている。

今後の動向をフォローしたい。

## 4. 米韓関係について

文在寅大統領は、米国のNBC放送とのインタビューの中で、2月9日に開幕する平昌冬季五輪の期間中、米韓合同軍事演習を開かないよう、米国政府側に延期を打診しているとコメントしている。

北朝鮮の軍事挑発を抑えるとともに、来年の五輪を、南北対話を復活させる契機としたいとする韓国の思惑があるとの見方が出ている。

今後の動向をフォローしたい。

## 5. 北朝鮮の穀物生産について

韓国政府・農村振興庁は、今年の北朝鮮地域の気象や害虫の発生、肥料需給状況、国内外の研究機関の作況資料、衛星情報などを分析した上で、穀物生産量の推計値を発表している。

そして、この推計によると北朝鮮では今年1年で計471万トンの穀物が生産され、昨年の481万トンから約2%減少したとの推測を行っている。

こうした数値の精緻さは別にして、北朝鮮の食糧事情は依然として芳しくはないと見ておきたい。

## 6. 本年の経済総括と来年の見通しについて

中央銀行である韓国銀行の李総裁は、経済動向懇談会を主宰し、「来年も北のリスクのような突発要因が発生しなければ、世界貿易の好調を基盤に韓国経済は潜在成長率水準の成長傾向が続くと思う。

一方、今年は予想できなかった事件が続けて発生し、まさに超不確実性に包まれた1年だった。」とコメントし、年初の大統領弾劾、北朝鮮リスクの増大、保護貿易主義の拡大などの不確実性により韓国経済への懸念が大きかったと総括している。

## 7. 北朝鮮の外交姿勢について

北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長は、平壤で開幕した党末端組織の委員長を集めた会合で挨拶し、「米国に実際の核の威嚇を加えられる戦略国家として急浮上したわが国の実体を、世界の誰も否定することができなくなった。」

と自画自賛し、核・ミサイル開発を改めて、内外に誇示している。

北朝鮮はこれを基にして、今後、米国をはじめとする中核国との間で、「対話路線」にその外交姿勢を転じる可能性があるかと筆者は見ている。

問題は、そのような北朝鮮の姿勢転換が出た際に、米国がそれを受け入れて対話路線に転じる可能性があるか否かである。

今後の動向をフォローしたい。

## 【トピックス】

私には血の繋がりのある弟と心の弟、昔風の言い方をすれば、「義兄弟」がいます。

私は、放蕩な男で、夢ばかり追いかけ、しっかりしていませんが、私の、「二人の弟」に共通することは、夢を持ちつつもまた、「堅実である。」ということにあり、こうした点に於いて、私は二人にはとてもかないません。

今日はそうした弟たちのうち、義兄弟の弟のお話を少しだけさせて下さい。

彼は父上が創業された会社を引き継ぎ、発展させている男です。

夢を持ちながら事業を多角化させ、収益の軸となるコアの事業ポートフォリオを大切にしながらも、飽くなき挑戦を続けていますが、彼はいつも、家族も含めると、1,000人近くとなる従業員とその家族を思い、様々な角度から、企業戦略、次の一手を打っています。

そして、私はそうした彼を見ていると、

「会社とは誰のものか？会社はいったい何の為にあるのか？」

と真剣に考えさせられてしまいます。

今の世界にあっては、上場企業などは、洋の東西を問わず、

「株主優先、株価優先の経営姿勢を取っている。」

と見られますが、それでは、本当に、経営陣は自らやりたいような経営姿勢が取れているのでしょうか？

顧客に満足を与える主役となるべき社員たちは本当に夢とプライドを持って仕事に臨んでいると言えましょうか？

私の見るところ、総じて、その答えは、「No」であります。

これに対して、義兄弟の経営姿勢を見ると、彼は、「社員に対して愛情を持って厳しく接する。」と言う基本姿勢を持ちながら、先ずは、様々な個性を持つ社員たちの能力を引き出すことに注力し

ています。

その際に彼が大切にしているものは、「社員の個性を尊重する一方で自社の理念を徹底させていること。」にあり、言葉を代えて言えば、

「社員の個性を尊重しつつ、志、即ち、会社の理念を皆で共有し、先ずは社員たちにその能力を伸び伸びと発揮してもらい、その社員たちの能力を十分に生かして、社会に貢献し、社会からは感謝されて、その対価を戴く、その対価が売上高となり、彼の会社の収入源となる。」

と言う循環を生むことに専念しており、こうした結果、彼の会社は着実に発展しています。

一方で、こうした彼の経営姿勢を見るにつけ、ひと頃流行ったベンチャー経営者が上場し、その資金でやれ六本木だ、やれ軽井沢だと暮らしているのと比較しつつ、

「企業が上場する意味は何か？」

と言う点もまた、考えてしまいます。

更にまた、日本には上場しておらず有名ではないかもしれないが、

「真に魂ある経営をしている会社」

がたくさんあるとも私は見えています。

そして、それが日本経済の強みの一つの源泉ではないでしょうか。

如何、思われますか？

## 【今週の「街角のお話」シリーズ】

慶應義塾の創設は福澤諭吉先生であります。私は中興の祖で私たち体育会の人間の師は小泉信三先生であると考えています。

その小泉信三先生は、スポーツの意義として、

「練習は不可能を可能にする。」

「フェアプレーの精神を養う。」

ことにあると共に、苦楽を共にした、かけがえのない、「友を得る。」ことにあると説いています。

さて先日、久しぶりに大学時代の野球部の同期が銀座で集い、私も遅参をしましたが、皆に会うことが出来ました。

そして、会った途端に青春時代に戻り、楽しいひと時を過ごしました。

そこで、交遊抄のようではありますが、26人のうち、出席した16人の仲間を以下に簡単にご紹介します。

東芝、ヤクルトでアマ、プロ野球で活躍、現在はスポーツキャスター・スポーツライターとして魂のこもったコメントをし、文章を書く青島主将

前橋高校のエースとして関東大会に出場、下級生の頃から神宮で活躍、その後富士銀行には入り、中国語の達人として、バンカーとして活躍もした石山投手

奈良高校から大学へと、長身・速球派投手、静かなる情熱の男であり、現在、電通で活躍、要職を務める磯部投手、

湘南高校でエースとして活躍、卒業後は英語教師として活躍しながら、慶應義塾高校野球部の監督も務め、数回甲子園に導いた上田投手

名ショート、東芝では主務として活躍、東芝総務の中核、そして東芝バスケットボール部の部長まで務めたこともある、そして現在は社会人野球の名門・東芝野球部OB会長の臼井内野手

いつも冷静沈着な判断、落ち着き払っていた、そして、パイオニアで海外勤務を多く経験し活躍し

た大館捕手

ダンディかつファイトマン、卒業後は味の素で長年フランス勤務をして活躍、英語、ドイツ語、フランス語堪能な大洞外野手

がっちり型でパンチ力あるバッティングセンスを持ち中軸バッターの一人としても活躍、その後はキリンビールで役員を務めるも、志を持って地方再生のため長崎の大学にて活躍している栗原内野手

中京高校で甲子園出場、一人で完封、自らホームランを打ち勝利、鳴り物入れで大学に来てクリーンナップを打ち期待通りの活躍、その後は東邦ガスで仕事に野球に活躍し、現在同社子会社役員を務める千賀外野手

土佐高校で甲子園出場、サイクルヒットを打って、当時は「西の玉川、東の原（巨人軍前監督）」と呼ばれ一躍有名となった美男子、大学でも中軸ヒッター、その後は日石で仕事に野球に活躍している玉川内野手

岡崎北高校で捕手、中軸打者として活躍、大学では優しい人柄でチームの皆から愛され、現在は自営業の社長として愛知の自動車業界を支えている中根捕手

大手前高校のエースとして活躍、しっかり真面目な信頼の男であり、その後は長銀、金融マンとして活躍する林投手

奈良郡山高校のエースとして甲子園出場、大学では肩を壊してしまったものの秘めた闘志の男、その後、三菱信託銀行に入り今も金融マンとして活躍している藤原投手

和歌山桐蔭高校で活躍、いぶし銀の内野手として仲間にも信頼があり、その後は三井物産で世界を股にかけて商社マンとして活躍している松田内野手

いつも泥臭くも最善の努力をし、住友信託銀行を経て、堪能な英語を駆使、外資系金融機関で活躍した金融マン渡辺内野手

が出席、そして、当時、慶應義塾にだけいた四人の女性マネージャーも参加、更に我々が怪我をするといつも助けて下さった慶應大学病院・厚生女子学院の教授でいらした松田先生もお呼びし、同期会は盛り上がりました。

当時はこうした仲間に、巨人軍で活躍した篠塚選手と共に銚子商業で甲子園に出場、現在、明治安田生命の専務をしている、フーテンの寅さんが大好きな前嶋捕手など9人が加わり、これを、報徳学園を甲子園優勝に導いた名将・福嶋監督が率いて素晴らしいチームの仲間たちでした。

しかし、それでも優勝はなりませんでした。

そんなことを今考えつつ、自らを顧みると、当時、主務をしていた私は、実に情けない男であったと深く反省しています。

私たち塾野球部では、選手が良くても主務が悪いと優勝できないと先輩に厳しく言われています。

私も頑張ったつもりでありました。

しかし、当時の私は、恥ずかしくも、しばしば、

「監督のご指示である。」

と言いつつ、皆に指示をしていました。

権威を傘に着せても人が動かないのは当たり前、仲間たちに気持ちよくプレーに集中してもらえるような運営が出来なかったことを今はとても悔やんでいます。そして、自らの人間力でチームを運営出来なかった私は本当に最低でありました。

そんなことを思うと、今も皆に会わせる顔がありませんが、改めて、皆に許してもらい、また、同期会に出席して、皆と様々なことを語り合いたいと思いました。



苦楽を共にした友、小泉先生が仰るとおり、やはり、かけがえのない宝です。

### [英語で一言]

ここでは、英語を母国語としない私が英語を母国語としない多くの人々にも伝わるように、短文、平易な英単語を使って、気になる言葉、出来事を、短歌のように数行で示していくことを毎週トライするものであります。

またまた拙いコーナーの開始ですが、お付き合いください。

### Human resource Management=人的資源管理

この10年の間、英国や米国では、雇用管理関係の概念として、「人材管理」という言葉より「人的資源管理」という言葉を使うケースが増えており、時に、

「戦略的人的資源管理」

という言葉がより適切する言葉として使われるようになってきています。

ご高承の通り、経営者の視点からすれば、「社員はコスト要因」であります。

しかし、同時に、「社員は利益を生む金の卵」でもあります。

経営者は、社員に如何に目標を与えそれを評価するかを考えなくてはなりません。

そうした意味で、社員に与える目標とその評価は、重要になります。

そして、如何にして良い人材を採用し、育て、適正配置していくかも重要になるのであります。

今後も注目したいと思います。

### Human resource Management=人的資源管理

In the last ten years, in both the UK and USA, the concept for managing the employment relationship has undergone a change. 'Personnel management' has increasingly given way to 'human resource management' (HRM) or, better still to 'strategic human resource management'.

As you may be aware, from the top management point of view, staffs are categorized to the cost factors.

But at the same time,

staffs are the Golden Eggs which may earn profits.

Top management should consider how to give the assignment as well as how to appreciate the staffs.

In this sense, both assignment and evaluation are very important for the management.

And how to recruit the staffs, how to educate the staffs and how to allocate the staffs are also important.

We should study human resource management more.

### [主要経済指標]

1. 対米ドル為替相場

韓国：1米ドル／ 1, 078. 51 (前週対比+9. 01)

台湾：1米ドル／29.92ニュー台湾ドル（前週対比+0.04）

日本：1米ドル／113.35円（前週対比-1.18）

中国本土：1米ドル／6.5760人民元（前週対+0.0315）

## 2. 株式動向

韓国（ソウル総合指数）：2,440.54（前週対比-41.53）

台湾（台北加権指数）：10,537.27（前週対比+45.83）

日本（日経平均指数）：22,902.76（前週対比+349.54）

中国本土（上海B）：3,297.063（前週対比+30.926）

以上

草の根の辻説法師を目指す

真田幸光